



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5111 (代発)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



〈第三十七回〉

若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

邑楽町の地名あれこれ⑤



「ムジナ」という字は、きちんとあります。「貉」・「貉」と書き表すのが正しいのですが、邑楽町では「狸」と書いてムジナと読ませます

狸塚(むじなつか・むじなづか)

動物学的にはタヌキとムジナは同じ動物だそうです。また裁判でも同体異名と判定されているそうです。ここ狸塚の地名の由来は諸説あります。

一つ目に、狸塚にはタヌキが塚に穴をあけて住んでいたのが「狸塚」と呼ぶようになったとされています。しかし、タヌキはつい最近まで人家に近い山林にはどこにも住んでいましたから、あまりあてになりません。

二つ目に、こんな話もあります。集落の人家の雨戸を決まってたたく者がいました。家の人が出てみると誰もいません。これはきつとタヌキのいたずらだろうということになり、若者たちが申し合せて、何者かが雨戸をたたく時刻に待ち伏せをしました。すると、タヌキが出てきて尻尾で雨戸をたたいています。若者たちは一斉にタヌキに飛び掛かりました。タヌキはとつさに、近くの阿弥陀堂の中に逃げ込んでしまいました。御堂には本尊様が安置してありますが、なんとまったく同じ阿弥陀様が二体になってしまいました。そこで若者たちは、タヌキをいぶり出すことにしました。始めはどっちがタヌキか、まったく分かりませんが、そのうち煙たくてタヌキがむせび

出しました。そこで、若者たちは「こん畜生」とばかりにどっと押し寄せて、袋だたきにして殺してしまいました。村人はタヌキのたたりを恐れて高台に埋め、ムジナ大権現と書いた墓標を建てて、ねんごろに供養をしたといわれています。この高台の塚を村人は「むじなつか」と呼んだので、これが地名になったといわれています。

三つ目は、次のような話です。狸塚には、足利から上五箇の渡しを渡って武蔵国に通ずる道がありました。ある年、都の人がこの道に差しかかりましたが、長い旅で疲れ果てていたようです。村人は気の毒に思い、丁寧に介抱してあげましたが、旅人の病気は良くならず、死んでしまいました。何でもその方は貴いお人だったといわれています。

村人は村の高台に立派な塚を作って埋葬しました。貴いお人の塚なので、人々は貴の塚と呼びました。

ちなみに、貴は神や人を敬つていう古代の名詞で、村人は貴の塚をいつか「貴な塚」と呼び、やがて「むじなつか」と転化しました。そして、その人を貴ノ宮社(木ノ宮社)に祭りました。それは、かつて高源寺の境内の一番高い所でしたが、道路の開通のため開削され、今はJ Aガソリンスタンドのすぐ隣、あぐり資材館敷地内の北西角に祭られています。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



春の里
(秋妻・玉取神社)



Photo 根岸定男(記録ボランティア)

ひとりごと From editors

▶4月から広報広聴係に配属になりました。もう目にした人もいらっしやるかもしれませんが、いかにも初心者でカメラを持った広報担当者がいたら、それが私です。▶いい写真を撮りたい、いいものを作りたい、そんな思いとは反対に、いつも散々な結果で気持ちは空回りしてばかり。緊張ばかりが先行して、なかなか体が動いてくれないのです。広報活動に限らず、厳しいこと、つらいことを言われることもあります。熱いうちに打ってもらっていると意識しています。▶熱を維持して名刀になるか、すぐに冷めて折れてしまうかは私次第。皆さんに打たれて自身を鍛えられるようにがんばりたいと思っています。よろしくお願ひします(須永)



この広報誌は、自然保護のため植物油インキを使用しています。



この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱製紙のニューVマット紙を使用しています。